

アンケート 報告

日本語ボランティア教室の

運営は今!!

TNVN会員団体の活動から見えてきます

日本語が不自由な外国人（特に生活者としての在住者）への日本語教育（日本語学習支援）の必要性は国の関係機関も認めています。現状ではボランティアによる日本語学習支援が大きな役割を果たしています。

日本語ボランティア教室活動を行っている多くの団体ではその活動の基盤が満足のいく状況にはなく、多くの努力と苦勞をしています。

第16回TNVN総会（2009.4.26）後の情報・意見交換会で現在各教室が抱える共通的な課題が多く出されました。（TNVN Network News No.66）

そこで本年7月にTNVNの正会員団体に「日本語ボランティア教室の活動について」のアンケートを出し、58団体（11月6日現在/発送81団体）から回答をいただきました。

内容は①活動の概況 ②人材 ③会場 ④資金 ⑤教室の運営 ⑥教材 ⑦連携 ⑧情報 ⑨TNVNへの意見の9テーマ（44の設問）で、面倒な設問が多いにもかかわらず、大変貴重なデータと御意見をいただきました。

——集約結果から言えることは——

日本語ボランティア教室は日本語を少しでも上手になりたい、日本人と日本語で話したい、仕事や勉強で日本語を使いこなしたい、等々の希望・意志を持って通って来る人達を気持ちよく迎えています。

アンケートに回答された教室で 月間参加者は支援者が5,367名、学習者が8,646名でした。

教室の規模を月間支援者数で見ると40名（週で10名）以下が半数を占めています。

学習者を迎える支援者は不足し、支援者の募集

やスキルアップの為に研修会・講習会が開催されています。

活動には支援の場所が不可欠です。多くは公共施設の会議室等を借りていますが、その場を確保するのに事前予約や抽選が必要で、安定しない教室が3割弱もあります。会場が安定して確保されることが望まれます。

資金は活動の糧です。活動費は学習者の参加費徴収が9割、区市の補助金・助成金を受け、活動費の一部を補っている教室は2割程度と限られています。

また、半数の教室では支援者から会費・寄付等を集め、運営費を賅っています。

支援活動を進める為に他の日本語ボランティア教室や他機関との連携を持ち、特に行政・国際交流協会等との連携・協力関係が期待されています。連携を通して日本語ボランティア教室はより安定した活動が得られ、行政情報・緊急時対応情報等を外国人へ伝える大きな力となります。

「多文化共生社会」への動きは国を始め、多くの自治体で見られます。日本語ボランティア活動は全国各地で活発に行われています。地域住民として外国人に日本語学習支援を行い、その中でコミュニケーションが図られています。

まさに「多文化共生社会」における大きな役割の一つです。しかし日本語ボランティア教室の実態は関係者以外の周囲の人々には充分周知されていません。

これからも理解して貰えるような働きかけが必要だと思われま。

（梶村 勝利）

1… 活動の概況

Q-101：貴教室で最近1ヶ月に参加した方々の延べ総数はどのくらいですか。

①支援者数 ②学習者数 ③活動時間数

* 月間の支援者総数から教室の規模をグループ分けすると、[A] 40名以下が半数で、[B] 41～80名を含めると3/4以上となります。(図-1)

* 月間の支援者総数は5,367名で学習者総数8,646名に対応しています。(図-2)

Q-102：最近学習者は増減していますか。

* 最近、学習者は半数近い教室で増加していますが、[A] グループの少数で減少と報告されています。

Q-103：教室紹介はどのようにしていますか

* 省略

図-1 支援者数グループ分け [回答総数：65]

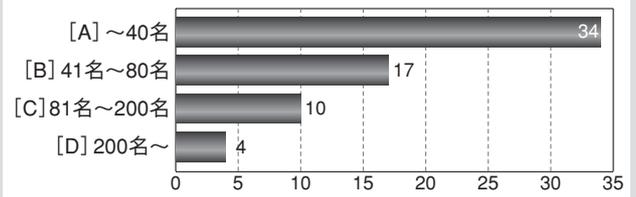
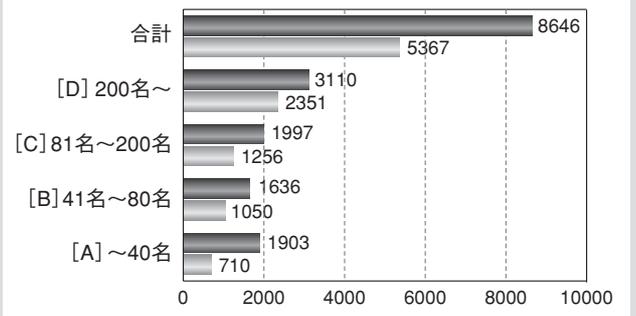


図-2 月間参加者数 [回答総数：65]



2… 人材

1) 新しい支援者の募集

Q-201：教室活動に必要な支援者は足りていますか。

* 約6割の教室で不足しています。

Q-202：支援者の募集方法と条件をお聞かせ下さい。

* 必要な時に口コミや広報などで公募している教室が多い。

* 条件では「誰でも」と「養成講座受講者」がそれぞれ約4割あります。

Q-203：支援者が活動する際の条件は（複数回答）

* 「自由に参加出来る」3割強、「会員となる」7割強、そして「会の運営で役割を分担して貰う」が半数あります。

2) 支援者の育成

Q-204：支援者募集や支援者養成のための研修会・講習会を行いますか。

* 半数の教室で「定期的に」か「機会があれば」で研修会・講座を開いています。(図-3)

* 「新支援者のみ」や「現支援者のみ」に限定せず、半数は「新・現支援者ともに」としています。

Q-205：支援者募集や支援者養成の為に開く講座等の費用とその費用の確保はどうか。

* 費用は「会の費用」か「参加費」で6割以上を占め、「区市等行政が行う」と「助成金・補助金等」はそれぞれ2割を切っています。

Q-206：実施の場合はどのようにしていますか

* 「独自」が半数以上、「区市行政や国際交流協会と共催」と「他の団体と一緒に」は合わせて1割程度です。

Q-207：講座等に講師を依頼しますか。講師はどのような方ですか。

* 大学の日本語教育専門教師・日本語学校講師 13、ボランテ

ィア活動に携わっている日本語教育専門家や実際に活動をしている人 20、教室内のベテランボランティア 6 となっています。現場での実績を重視しています。

Q-208：講座の実施には教室以外の会場を使用しますか。

* 「教室で」と「会場を借りる」がほぼ3割で同じです。

* 会場を借りる場合、生涯学習センター・公民館・区民センターなど公共施設が16で最も多い。

Q-209：支援者募集や支援者養成についてのご意見をお聞かせ下さい。

* 支援者募集や育成についての意見では独自や共同で行うにしろ「区市行政の支援」や「TNVN・協力連携体制」を望む声が多くあります。(図-4)

図-3 支援者の育成 [回答総数：62]

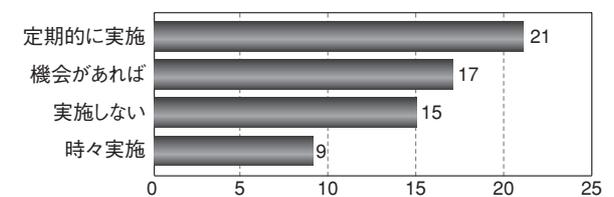
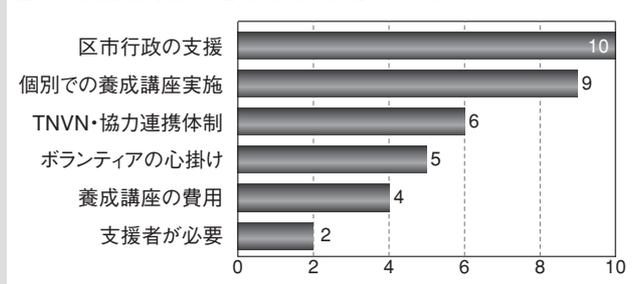


図-4 支援者の募集と育成 [回答総数：65]



3… 会場

1) 会場の確保

Q-301：使用している会場、会場の確保について再度お知らせ下さい。

(会場)

*日本語学習支援の拠点である会場は公共施設・生涯学習センター等が7割強、教会・民間施設と国際交流協会がそれぞれ1割、学校（教室・体育館）・図書館は1割以下です。

(図-5)

*会場の確保は「事前予約が必要」と「常に確保されている」がそれぞれ3割強、「事前予約し抽選で決まる」が2割で「事前予約が必要」は半数になります。(図-6)

Q-302：会場の使用料は無料ですか、有料ですか。

*使用料は半数が有料で、その内半数は割引を受けています。

(図-7)

Q-303：会場使用料はいくらですか、運営費に占める割合はどうか。

*年間の会場使用料は3万円前後が3割強、5万円以上が4割を越えています。(図-8)

*会場の使用料が教室の運営費に占める割合が26～50%で3割強と最も多く、10%以下で11～25%と次いでいます。

(図-9)

Q-304：会場使用料はどのようにして確保していますか。

*「学習者から」11、「学習者と支援者から」5、「会費から」4 確保しています。一方、一部助成金や委託事業費負担が7となっています。

2) 会場の状況

Q-305：現在使用している会場についてお聞かせ下さい。

*省略

Q-306：会場の確保や使用料などについてご意見をお聞かせ下さい。

*「行政等の配慮から問題ない・恵まれている」が21と最も多い。反面、「行政の配慮・安定した確保を望む」10「会場確保が難しい」6「優先使用を望む」6「会場の無償提供を望む」4など行政への要望が多数有ります。(図-10)

図-5 活動の会場 [回答総数：76]

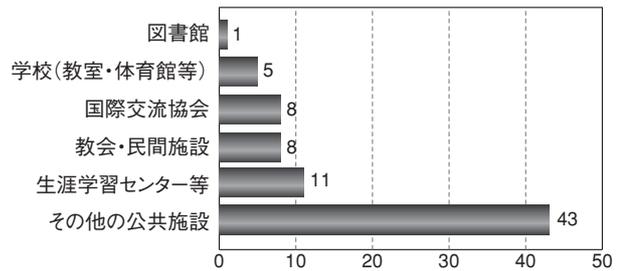


図-6 会場の確保 [回答総数：65]

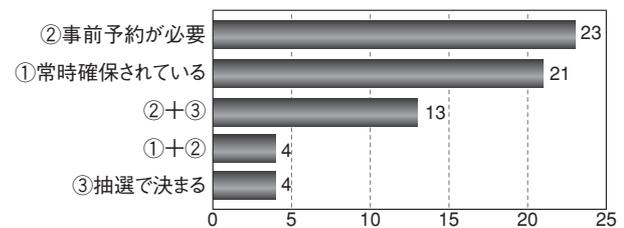


図-7 会場の使用料 [回答総数：64]

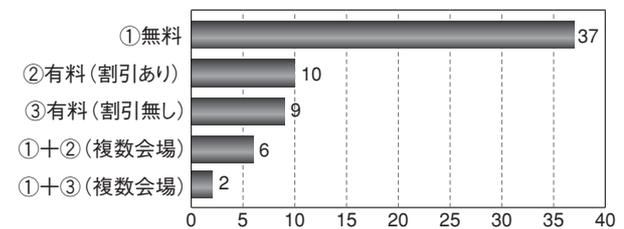


図-8 使用料 [回答総数：30]

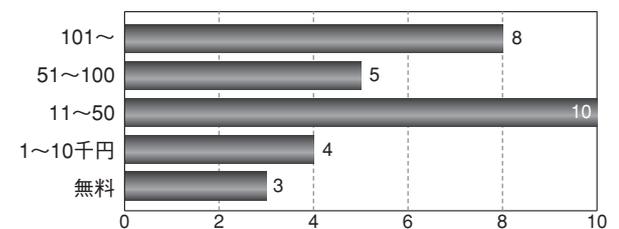


図-9 会場使用料が運営費に占める割合 [回答総数：25]

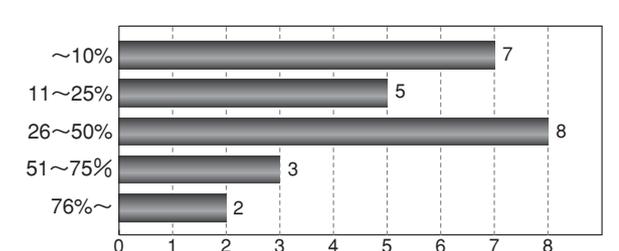
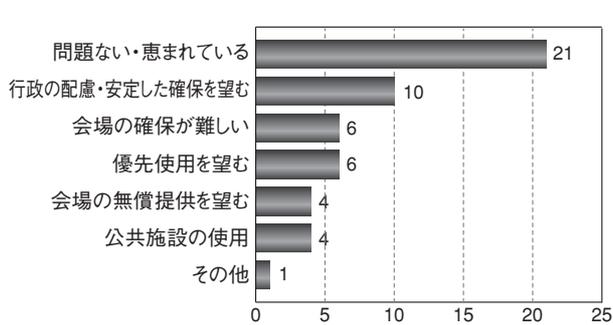


図-10 会場の確保や使用料についての意見 [回答総数：52]



4… 資金

1) 活動費用 (支出)

Q-401 : 年間予算はどのくらいですか。年間費用で最も多いモノは何ですか。

* 年間の活動予算 (回答数39) は20万以下が 約半数の19で、規模の大きい教室では50万円以上が9あります。(図-11)

* 年間費用で最も多いモノでは「行事等」と「交通費等の支給」が各15、「会場使用料」が11あります。(図-12)

2) 活動資金 (収入)

Q-402 : 主な収入源は何ですか。またそれらの金額は年間どれくらいですか。

* 主な収入は「学習者の参加費徴収」が9割を占めています。その中に「区市の補助金や国際交流協会」を含めているのが2割と限られています。また「支援者からの会費」が半数あります。(図-13)

Q-403 : 活動に必要な機材 (ロッカー、コピー機、教材、パソコン等) を無償で使えますか。

* 約8割がロッカーの提供を受けています。

* 2割強は教材等を収納できる場所がありません。

3) 補助金・助成金等

Q-404/405 : 区市・ボランティアセンター・国際交流協会等で補助金・助成金等の制度がありますか。/ 申請したことはありますか。その時の申請金額と支給率は、又支給限度額はいくらですか

* 区市・ボランティアセンター・国際交流協会等で制度がある事を7割の教室が知ってはいても、そのうち申請をしたのは4割です。(図-14)

* 申請額は回答数の3割強が5万円以下で未記入も多い。支給率も50%前後と100%がそれぞれ3割強です。

Q-406 : 申請の手続きで感じたことがありますか。

* 申請手続きで感じたことでは「補助金が少ない・手続きが煩雑」が12と最も多く、申請したが得られなかったが5あります。(図-15)

図-11 年間予算 [回答総数: 39]

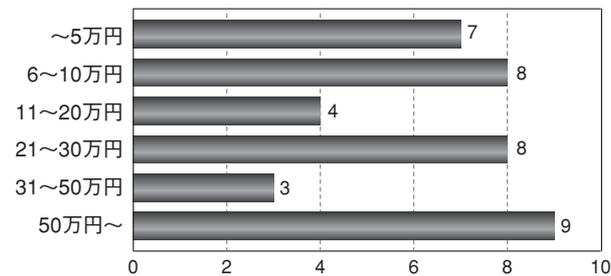


図-12 年間予算で最も多いモノ [回答総数: 63]

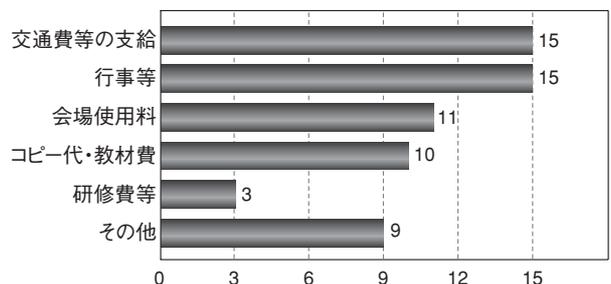
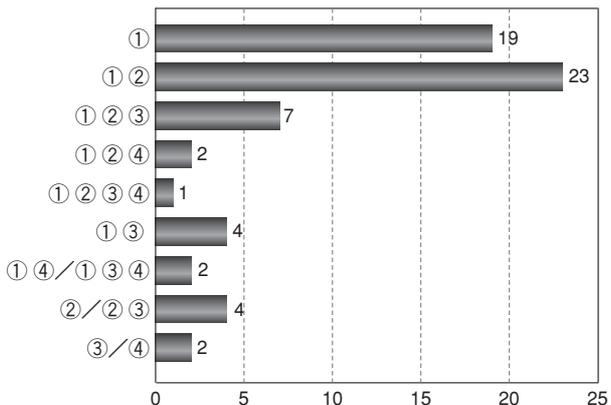


図-13 主な収入源 [回答総数: 64]



[図表の記号] ①学習者の参加費
②支援者から会費
③区市や国際交流協会等からの補助金
④その他 (例: 民間からの支援)

図-15 申請手続きで感じたこと [回答総数: 28]

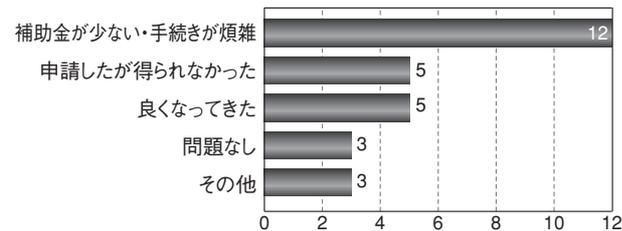
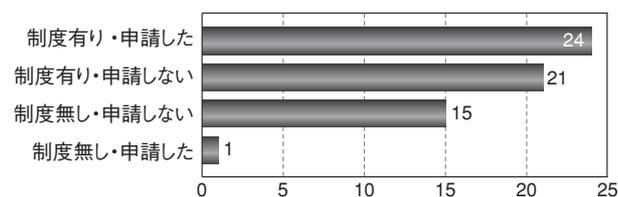


図-14 補助金助成について [回答総数: 61]



5…教室の運営

1) 支援者の連携

Q-501：教室の運営を円滑に進めるために支援者間の意思疎通をどのように図っていますか。

*「毎回学習支援後に集まりを持っている」が3割、「毎月一回定例会や役員会などを定期的に持っている」が半数あります。しかし、夜の教室では「集まりがなかなか持てない」ようです。(図-16)

2) 学習者に対する対応

Q-502：新しい学習者を受け入れる時どうしますか。

*「面接しながらレベルチェック、プロフィールカード作成、学習希望の聞き取り」など何らかの形で行っています。

Q-503：新しい学習者と支援者の組み合わせをどのようにしていますか。

*グルーピングやローテーションは学習者と支援者の状況を見て行うのが大半です。

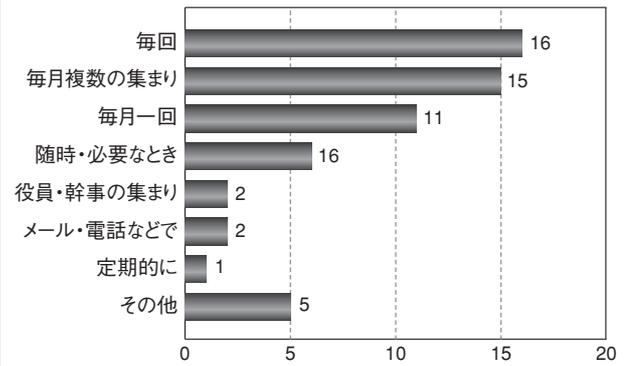
Q-504：学習者が長期に参加している場合、支援者を変えることがありますか

*省略

Q-505：同じ区内の居住者・在勤者等の制限を設けていますか。

*9割以上は制限せず。ボランティア活動であり、学習者の希望・熱意を尊重する意見が多い。

図-16 支援者の意思疎通 [回答総数：58]



6…教材

Q-601/602：教材を使用していますか。

*使用しているが9割以上で、「決まった教材の使用」が6割、「使用しているが決めていない」が3割です。

Q-603：指定教材を学習者に購入して貰いますか。

*特に要求しないが6割です。

Q-604：教材の保管場所がありますか。

*教材の保管場所は「ロッカー・書棚等を借りている」が4割、「その他保管場所がある」が3割で、「持ち帰りや保管場所がない」が2割です。(図-17)

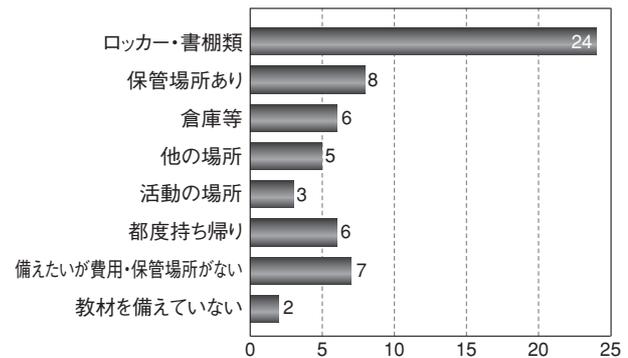
Q-605：教材購入やコピー代等の費用は予算にありますか。

*省略

Q-606：学習支援の中で緊急時対応（地震等災害、交通事故、病気など）を取り上げますか。

*学習支援の中で「緊急時対応を取り上げている」が7割あり、その殆どは「不定期」です。使用する資料は「区からの配付資料」が大半で、「防災館や防災体験」が9件、また、最近のインフルエンザ対策も取り上げられています。

図-17 教材の保管場所 [回答総数：61]

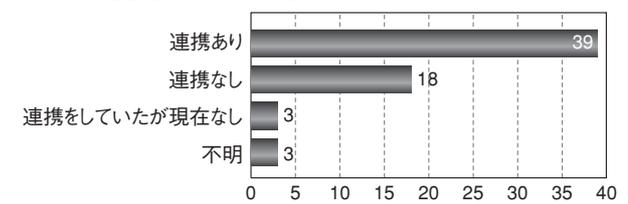


7…連携

Q-701：TNVN以外に他団体や機関と連携をしていますか

*6割の教室がボランティア活動を通しての他団体や機関と連携を持っています。(図-18)

図-18 連携 [回答総数：63]



* アンケート報告

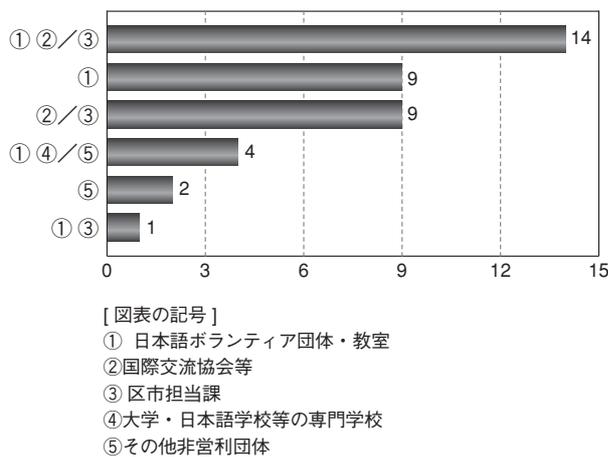
Q-702：どことどのような連携・協力関係を持っていますか。

*最も多い連携先は日本語ボランティア教室と区市の担当課や国際交流協会を加えたのが4割近く、他の日本語ボランティア教室との連絡会や情報提供をしているのが2割強あります。一方大学・日本語学校との連携は1割程度で少ない。(図-19)

Q-703：教室活動をする上で行政との関わりをもっていますか。

*「行政との関わりを持っている」が6割、「関わりを持っていない」が3割強あります。

図-19 連携・協力関係 [回答総数：39]



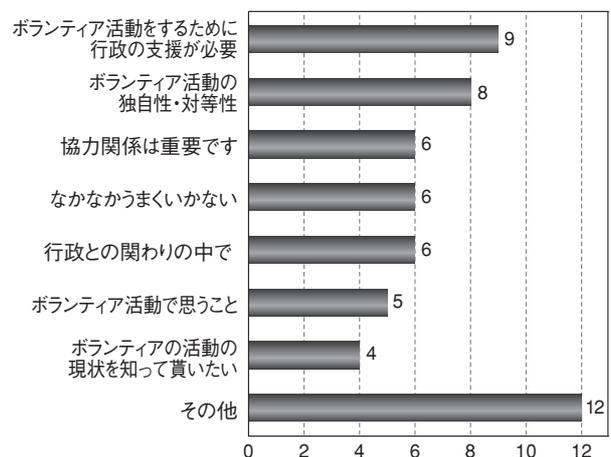
Q-704：行政への働きかけをしていますか。したことがありますか。

*働きかけをしているのは4割です。

Q-705：行政との協力関係をどのように考えられますか。

*「協力関係は重要」6、「ボランティア活動をするために行政の支援が必要」9 と多い、一方「ボランティア活動の独自性・対等性」8、「ボランティア活動の現状を知って貰いたい」4などがめだちます。(図-20)

図-20 行政との連携について [回答総数：56]



8... 情報

Q-801：区市行政が発行する情報・配布物（生活情報、行事情報、緊急時対応情報、その他）を活用していますか。その中で外国人への情報として有用なモノは何ですか。

*「区市行政が発行する情報を活用している」が7割40、有用な情報として「緊急情報を含む生活情報・行事情報」と「多言語情報」をあげているのがそれぞれ3割で多く、「保健・福祉情報」3もあげている。(図-21)

Q-802：緊急時対応等の情報を学習者に紹介しますか。

*緊急情報等の情報は学習者に「必要なときに」52提供している。

*紹介方法は「話題として採り上げる」18、「掲示配布等」が15ありました。

Q-803：行政情報をどのように考えますか。

*行政情報についての意見では「情報の多言語化を」13の他「分かりやすい日本語で」4、「活用について」13「情報の伝達を」14など多数あります。(図-22)

図-21 有効な行政情報 [回答総数：39]

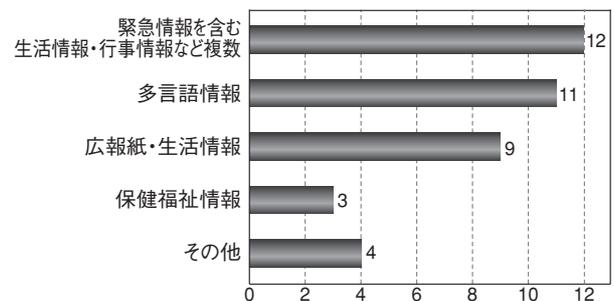
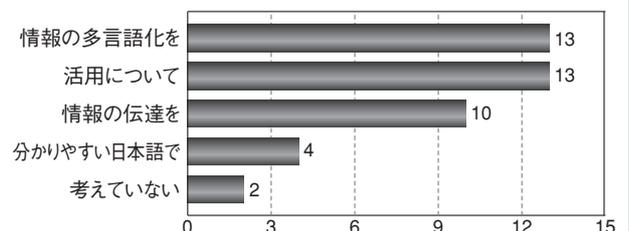


図-22 行政情報をどのように考えていますか [回答総数：42]



9... 今後の活動について

TNVNの活動への評価や、アンケート結果への期待が多くあります。

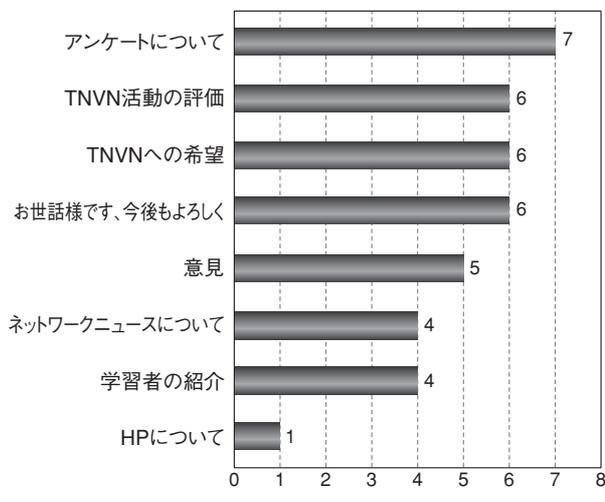
その中から幾つかを紹介します。

- * 各日本語ボランティア教室間の情報、連携が取りづらいうで、TNVNからの活動情報は参考になり貴重と思われます。
- * TNVNの情報（ニュース）でしかコンタクトしていないが、多方面での活動されているのを感じています。TNVNのノウハウをいかして整理してオープン化することを考慮願えればと思います。
- * いろいろな問題点を連携して解決していきたい。情報交換を行い、自分たちの活動にも役立てていきたい。
- * このアンケートもまた国や行政レベルの諸施策に働きかける縁になるよう願っています。
- * TNVN network news 毎回見えています。情報源として利用しています。その活動を高く評価しています。

TNVNのスタッフに対して大きな励みとなる声を戴きました。

重ねてアンケートへのご協力に感謝します。

図-23 TNVNへのご意見 [回答総数：39]



会員団体紹介

Nice to Meet You

nice to meet you

アットホームな教室

日本語を話す会

代表 白根 祐子(西東京市)

「日本語を話す会」は、2003年度の西東京市日本語ボランティア養成講座の受講生有志が、立ち上げた日本語教室です。今年で6年目を迎えました。

今までに関わってきた学習者の出身国は韓国、中国、台湾、タイ、インドネシア、フィリピン、アフガニスタン、スリランカ、ロシア、コロンビア、メキシコ、カメルーン、オーストラリア、等々。その中には1,2回で来なくなった人、日本語能力試験で1級に合格した人、運転免許を取った人、文法よりもおしゃべりが好きな人、留学先から電話をくれた人など、様々な学習者がいました。

現在は学習者14名前後、ボランティア12名で活動しています。

通常の日本語学習のほかに、節分、ひ

な祭り、七五三などの季節の行事を紹介したり、フリートーキングの時間を設けて、なるべく多くの人たちと話せるようにしたりしています。

会の大きな行事はお花見と忘年会です。お花見では学習者がお国の料理を作ってきたり、みんなでお弁当の交換をしたりして、まさに「花より団子」です。忘年会は毎年担当者が違うので、当日までのお楽しみになっています。

保育はありませんが、親御さんの責任のもとで、お子さん連れでもOKです。お母さんの日本語の上達もさることながら、お子さんたちの成

長ぶりにも驚かされます。

2、3か月来ない学習者も、夏休みだけの学習者も、木曜日午前10時から12時までの話す会の時間を忘れないでいて、「おはようございます」と自然に教室に入ってきて、ボランティアのほうも「お久しぶり！元気だった？」と迎えられる、それが話す会の原点だと思います。



Nice to Meet You

先ず当会の名称「日本語学習市場」(Language Basaar)の命名由来をお話します。往時のシルクロードを往来した隊商の集まる場所“バザール(市場)”には、あらゆる国の品物と同時に各国文化も伝わり市場は大変賑わっていたことでしょう。その状況を踏まえ、品物ではなく日本語を主体とした言葉の行き交う市場を想定して当会の名称としました。会の設立から8ヵ年を経過しました。活動の方式は3班が主体的に行動しており具体的な内容につきましては、以下の通り2か所の場所で週4教室が開催されております。

社会教育センターでの 午後授業の2教室・ 先生5名

火曜日は2時15分から5時までを2クラスに分け、木曜日のクラスと連動しております。

木曜日は1時から5時まで入門・初級・中級の3つのクラスに分けて授業をしています。主に韓国・中国・台湾・フィリピン・シンガポール・インドネシア・インド・ネパールそしてロシア・イギリス・フランス・アメリカ・カナダ・フィンランドから常に20名近い生徒さんが見え、国際色豊かです。

クラス分けはされますがレベルの違いもあり、時には先輩の通訳を頼りに勉強することもあります。教科書を使っている授業ですので読む・書く・話すの全てを勉強しています。会う度に上達しているので教える側としても、とても励みになります。台東区に在住・在勤・在学する生徒さん達の置かれた状況はそれぞれ

言葉の行き交う市場

日本語学習市場

代表 佐久間 柁守(台東区)



違いますので日本語を勉強する理由もそれぞれです。日本語を教えるというのは単に母語と日本語の置き換えだけでなく人と人との繋がりを、言葉を通してできるようにし、日本での生活を豊かなものにして行ける力を付けてあげることが出来たら、日本語教師としての役目を果たしたと言えるのではないかと考えています。

生涯学習センターでの 勤務者対象の2教室・ 先生6名

火曜日は夜6時から9時まで、土曜日は1時から5時までを特にレベルによってクラス分けはしておらず、生徒の学習意向に従って授業が持たれ(会話主体か、読み書き主体か)教科書も特に有るわけではなくその日の主題に基づきプリント類で行っています。

この教室の生徒さんは、昼間は勤務している人のための授業です。最近IT企業に勤めている生徒さんが圧倒的に多いです。

平均して一回の教室に20名くらいの参加があります。しかし長期に参加する生徒さんが少なく出入りが激しいため、一定の方向付けをした授業を展開する

ことが出来ず、教科書も定めることが出来ぬことが教習技術の悩みであります。参加する生徒さんはすぐにでも日本語が分かるようになるのだ、との過大な期待が強いことも長期に参加しないことの起因と分析しています。

もう一方、昼間は普通の日本語学校に通学しているながら当会のクラスに参加している生徒さんも多い事例です。たぶん予習・復習のためのいわゆる「塾感覚」で参加している様子が見受けられます。

当会では、生徒さんから毎月400円の会費を徴収しております。ボランティア活動ではありますが会費を徴収するのは、不特定多数の無差別参加者の歯止めと考えております。これは逆に、参加される生徒さんの長期化に支障があるかもしれませんが反面、真面目に4年強も参加している生徒さんもおり、これは当会の役割がある種のアアシスの場となっているのではないかと感じております。



学習者の声

在日生活が大分楽しくなりました。

徐永旺 / 中国 小岩日本語クラブ (江戸川区)

半分楽しみがあると同時に半分不安もありました。そこで、身近にある日本語教室に通うことを通して日本語の勉強を続けようと思いました。実際しばらく通ってみたら、日本語の勉強に役立つだけでなく、日本での生活情報など先生方にいろいろと教えていただくことにより、在日生活が大分楽しくなりました。また、教室が終わったら、先生やほかの学習者と一緒に食事に行ったり、スポーツをやったりして、とてもいい思い出にもなりました。

今は仕事の関係で板橋区に引越して、毎週のように小岩日本語教室に通うことはできなくなりましたが、春の花見&バーベキュー大会や夏の花火大会や秋の定例料理会、冬の新年会などのイベントはなるべく参加するようにしています。いつも勉強すると同時に楽しい一時を過ごすことができますので、日本にいる外国人にはぜひこのような日本語教室に足を運ぶことをお勧めです。そして、長年間ボランティア活動を続けてきた先生達にありがとう！

私は約2年前、仕事で日本に来ました。友人の紹介で来日してまもなく、住所の近くにある小岩日本語教室に初めて訪れました。思ったよりボランティアの先生方の人数が多く、生徒にはほぼ1対1で教えていたことがとても印象的でした。授業内容はとても自由で、自分が教えてもらいたいことを先生に伝えれば、必ず親切に教えていただけます。

私は来日前にある程度は日本語を勉強していましたが、日本での生活については、



ボランティアの声

いろいろな経験を通して……
黒崎英志 / 小岩日本語クラブ (江戸川区)

「はい、それじゃちょっとやってみて」この、一言でボランティアに足を突っ込んで、すでに10年以上たってしまいました。最初、江戸川ユニオン日本語教室に参加していました。そして今は、小岩日本語クラブにおります。

この間、老若男女、さまざまな学習者と一緒に勉強してきました。小岩日本語クラブに初めてきた時は小学生だった男の子も、もう大学を卒業して社会人になっていたり、来日当初、知り合いが一人もいなかったけれど、今は結婚なさって、お子さんが生まれたり。本当に、「年々歳々、花相似たり。歳々年々、人同じからず」です。

お会いしたボランティアの方たちも、多士済々です。初の戦後賠償でビルマに渡り、プラント設置に携わった方。最初は不信の目で見られたり、すぐ帰国するように脅されたりしたこともあったけれど、地道に仕事をすることで、ひとつひとつ、周囲の信頼を得ていったそうです。若いときにアメリカ各地を歩いて回って、その

土地土地での交流経験がきっかけで、江戸川区で在住外国人のためのボランティアを始めた方もいます。

そうした、いろんな経験をしてきた方たちとの日本語学習が触媒になって、自分もいろいろな経験を通してどんどん化学変化していっているような気がします。



留学生の日本語クラスから

寄稿

日本語教師(東京大学・日本大学) 金子 広幸

多文化共生ということばがあちこちで聞かれる。キョウセイという言葉にドキッとした人もいないか。私も最初に聞いた時は一瞬「自文化強制か」と思ってしまった。少し前までは「英会話で異文化コミュニケーション」だったのだが、最近ではあまり聞かれない。

●世は異文化ではなく、共生なのだ●

それは私たちにはそんなに難しいことではない。

日々、教師として日本語クラスの準備をしていると「これならわかってもらえるかな」と考えながら共感してもらえる何かを探していることに気づく。今担当しているクラスには、国連のようにあちこちの国からの学習者たちがいて、人数も拮抗しているから最大公約数を取るのはたしかに難しい。しかし、20名近いクラスのすべての人と、共感を分かち合える何かを探している。

●目を空に向けよう●

我々は地球という同じステージに立つ人類として生まれ、育った環境でいろいろな文化や歴史を背負い、誇りや伝統文化、宗教、芸術のようなプラス面も、差別意識や憎しみや争いというマイナス面も共有して生きている。

違うのは当然なのであるが、よく見るとそれはあくまでも個人間での違いで、その違いが民族間の差を越えることはない。とかく我々は「あの人は大阪の人だから…」とか「まったく男性というものは…」などというが、それも個人の差であって、集団のもつ傾向の差にすべて当たるとは、絶対に言うことはできない。

ときどき社会が「異なること」にのみ目を向けすぎていると感じることがある。養成講座のクラスでも、言語構造の解説などで「ここは日本語と違うの

で注意！」などと私も言っているが、しかしこれと人の心の分野はまた異なる。私たちが人類である以上、どの人にも、苦しみや悲しみはわかり合え、喜びは分かち合える。異文化を知ることとても大切だが、「ここまで同じだ、こんなことも分かってもらえる」という共感をもっと意識してもいいのではないか。

私はこれを異ブンカに対して「同ブンカ」などと呼んでみた。こんな言葉を使うとお歴々からお叱りが出そうだが、あえて言いかえるなら「共文化」ともいうべきものが存在することを忘れてはならない。そしてこれらを上手に挟みながら、日本語のクラスができれば、もっとおもしろいはずだ。

…崇高な理想はここまでにして、地上に降りてクラスに戻ろう。

先日のクラスで「なければなりません」を扱ったが、各国のしきたりや、税制の違いを発表しあう活動をしたら、大いに盛り上がった。「いちばん大きい男の子のおくさんは、全部の家族の面倒をみななければなりません」「私たちはトランプを買うとき税金を払わなければなりません(日本も1989年まではトランプ類税があった)」などユニークな発言が出て、「私の国は払わなくてもいいです」と自然に発話していた。「なければならぬ」というこの文型は、広く「社会の義務として」存在するものから、「個人が自分に対して課した義務」までカバーしている。なので、学習者が背負ったものがよく表れる。

クラスを笑わせようとするには、当紙61号でも書かせていただいたが、「絵」を使用している。一緒に笑えば、クラスは一丸となる。

日本語教師たちは、ひとりブツブツ言いながらニヤニヤしながら、夜中に絵を描いたり、例文を考えたりする。共感を得られる、共文化を共有できる場を作ることを目指して。

禅、武道、茶道、 美術など

日本文化体験交流塾 理事長

米原 亮三

鎌倉時代から戦国時代にかけて、茶道、俳諧、武道、能などの文化が相互に関連しつつ生まれた。その基本である禅宗は、論理や言葉では表現が難しいとされるだけに、一般には理解が難しい。座禅を組み、多くのご住職のお話を聞き、私自身が感じとったことを基本に、こうした中世の文化、とりわけ外国人に説明する要点を以下に書く。

第一は、今を生きることである。禅思想を尊重した戦国武士にとって、大切なのは死の恐怖を克服することである。「切られたら痛い」と思えば、戦えない。死んでも良いと覚悟した人は強い。能はこの世ではなく、人間を超えた世界であり、織田信長は、桶狭間の戦の前に能を舞ったという。禅宗の僧侶である上杉謙信は、常に先頭をきって戦い、敗れたことがないという。皮肉にも死を怖がらないものが生き残るのである。

座禅を組んだとき、和尚に言われた。死後に浄土があるか否かは、誰にもわからない。確かなのは、今、生きていることであり、それだけを考えなさいと。現代、「失敗が怖い」、「評判が気になる」など結果をおそれるあまり、前向きな取組が少ない。真実を求め、ベストを尽くすことは、現代人にとっても大切である。

第二に、和の心である。利休が茶

室への入口を小さくしたのは、大小の刀剣を置かせるためという。茶室では、身分の上下はない。洗心に努め、憤りや恨みなどの感情を茶室に持ち込まない。戦国時代には、兄弟であってもお互いに戦うことがある。だからこそ、茶の湯では、「一期一会」を、二度とないものとして、大切にすべきとされている。

私は、茶会にお招きする外国人に対し、国籍や宗教、戦いの歴史を超えて、心の交流をはかることが茶道の本質であり、この出会いを大切にしたいと説明している。

第三に、静寂の美学である。禅の修行は、座禅や問答だけでなく、畑を耕す、掃除する、料理を作るな

ど、すべての行為である。精進料理では、一汁一菜も残すことは許されず、与えられたものに感謝する。「求心止む処、即ち無事」という言葉は、欲望を膨らまさないければ、禍も起きないという意味である。高収入を得るために、深夜まで働く。ブランド物欲しさに、罪を犯す。こうした欲望の追求が、身体や精神のバランスを壊すことに警鐘を発している。

超越的な孤絶性、つまり「わび」や「さび」の美学は、枯山水の庭園や茶わんなどに見られる。広い空間を埋めつくすことなく、物を配置したり、描くことにより、対象物を際立たせ、素朴な素材のなかに本当の真や美を見出す。西洋のような豪華な盛り花ではなく、花と花の間の空間も重視する日本の華道がある。薄い味付けのなかに、素材の良さを生かすのが日本料理である。

私は、こうした日本文化に誇りをもち、現代に意味を再発見して、世界に発信する活動を続けている。





●「出前講習会」実施報告（2008年10月～2009年11月）

以下の講座の企画、および講師派遣をいたしました。

- | | |
|---|---|
| <p>①「港区日本語ボランティア入門講習会」
・実施日：2008年11月16日～12月21日（全5回）
・会場：港区立生涯学習センター</p> <p>②「金曜にほんご教室（所沢市）勉強会」
・実施日：2008年11月28日
・会場：所沢市庁舎会議室</p> <p>③「しゃべろう日本語（文京区）勉強会」
・実施日：2008年11月29日
・会場：アカデミー千石</p> <p>④「港区日本語ボランティア研修講座」
・実施日：2009年1月17日～2月14日（全5回）
・会場：港区立高輪区民センター</p> <p>⑤「北区立中央公園文化センター区民講座」
・実施日：2009年2月28日、3月14日</p> | <p>・会場：北区立中央公園文化センター</p> <p>⑥「新宿区日本語ボランティア研修講座」
・実施日：2009年1月20日～3月23日（全6回）
・会場：新宿文化センター会議室</p> <p>⑦「新宿区夏期日本語ボランティア研修講座」
・実施日：2009年7月28日～8月31日（全6回）
・会場：新宿文化センター会議室</p> <p>⑧「所沢市日本語学習支援ボランティア養成講座・研修講座」
・実施日：2009年10月5日～11月25日（全5回）
・会場：所沢市庁舎会議室</p> |
|---|---|
- （担当 林川）

●活動内容や連絡先の変更がありましたらお知らせ下さい

新年度を迎えますと代表者や活動の内容を変更される団体・教室があります。その際は是非TNVN事務局にご一報をお願いします。「ボランティア日本語教室ガイド2008東京」を発行し、1年が経ちました。その間、活動内容や連絡先の変更、新たに「ガイド」

への掲載希望のご依頼がきています。これらを折り込んだ新しい冊子の発行は現時点で費用・作業の関係で出来ません。よって、6月に訂正・追補版を作成し、各団体にお送りしました。ご活用ください。

●Column

❖「聞く」「聴く」「訊く」…。

私たちが日本語ボランティアの活動の中で期待されているのは「聴く」こと。「聴く」というのは、一生懸命話そうとするその「人」に関心をもち、その人の立場から一緒に問題をみつめてみようとするのでしょうか。

でも、実際に日々の己の活動を振り返ってみ

ると、「聴く」役の自分の方が「きいてもらった」ということもしばしば。これではいけないと、今、「聴くこと」の勉強をしています。ところが、「上手に聴こう」とすると、かえって不自然なやりとりになって、言葉がまるで出てきません。

そんな私に、「聴くこと」の先生が教えてくださいました。まずは、うなずく。次に、あいづちをうつ。そして、「文」で返そうとせずに、話し手から出た言葉の何か一つを拾って、ただそのまま繰り返して言うてみる。不思議なもので、今は日々の暮らしの中でも、けっこう「よく聴く」自分があります。

（や）



TNVN東京日本語ボランティアネットワークはボランティア日本語学習支援活動を行っている団体のネットワークです。TNVNの会員はそれぞれ地域での日本語学習支援活動を通し、言葉のため日常生活に不自由を感じている外国人などを、隣人として支援しています。TNVNは会員への情報提供・会員相互の情報交換、および外部との情報受発信を行い、活動の活性化を図ります。

東京日本語ボランティア・ネットワーク事務局の活動

◆日時：毎週金曜日

第1、第3 金曜日／午後2時～4時

第2、第4 金曜日／午後2時～6時

◆場所

東京ボランティア・市民活動センター
JR、地下鉄（東西線・有楽町線・南北線・大江戸線一出口B2b）飯田橋駅下車
セントラルプラザビル 10F ロビー

◆日本語ボランティア相談窓口

日本語ボランティアの活動についてのご相談・ご質問にベテランスタッフがお応えしています。電話でご確認の上、気軽にお越し下さい。また、メールでのお問い合わせにもお応えしています。

ご意見もお待ちしています。

〒162-0823 東京都新宿区神楽河岸1-1
東京ボランティア・市民活動センター
メールボックス No.4

●TEL：03-3235-1171

（呼出：金曜日活動時間帯のみ）

●FAX：03-3235-0050

●E-mail：webadmin@tnvn.jp

●URL：http://www.tnvn.jp/

●郵便局払込

口座番号：00100-1-719259

加入者名：東京日本語ボランティア・ネットワーク

●新会員紹介

正会員 ◇にほんご生活（中央区）

●会員数（2009年11月27日現在）

正会員：85団体 協力会員：32名

賛助会員：5団体

●編集／岩佐 幹彦、大木 千冬、

岡田 美奈子、小川 伶子、梶村 勝利

床呂 英一、林川 玲子、福井 芳野

●レイアウト／鶴田 環恵